

「都幾川の三日月湖(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋


簡単な「現地調査」が一応終わったので、次に都幾川の「三日月沼」が、間違いなく三日月湖(河跡湖)であることを、古い地形図で確かめてみた。

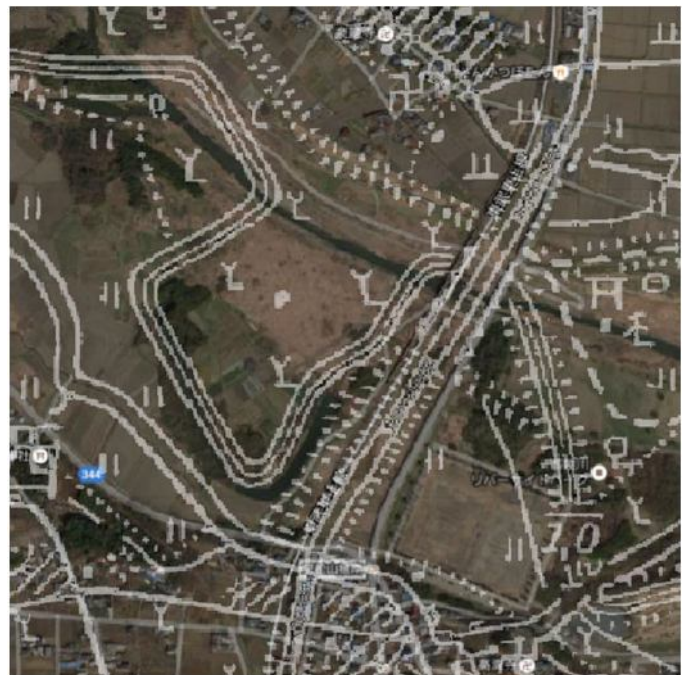



上図は、1937年(昭和12年)の1:50000地形図である。幸い私の手元には、この時代の地形図が、ほぼ全国すべてそろっている。地勢や交通網の変遷を研究する上では、非常に貴重な資料である。戦前の測量で単色刷、印刷も決して良くはない。しかし集落や街の描き方などは、現在の地形図よりも緻密と思える表現もあり、しかも非常に美しい。地名もすべて「手書き活字」で、図副によって文字が異なり味わいがある。

東松山市はまだ「松山町」となっている。東上線の駅名も「武州松山」となっている。1954年の市制と同時に、四国の松山市と区別するために、「東松山市」となった。地元では単に「松山」と呼ぶ人が多い。

土地利用の記号も興味深い。田んぼの記号とともに目立つのが桑畑の記号(ㄥ)である。戦前このあたりは、養蚕が非常に盛んだったことが読み取れる。寄居町に住む私のいとこの実家も、養蚕農家だった。

三日月沼のもとになった都幾川の蛇行はの部分である。この蛇行自体が直線的で、人工的な流路という印象を受ける。より確実にする為に、現在の航空写真に、当時の地形図を白抜きにして重ねてみた。



当時の蛇行部と、現在の三日月沼の形状が、完全に一致していることがわかる。自然堤防がの記号で表現されているが、蛇行部と東上線の間にもその記号が見られる。私が調査車「モコ号」で走った土手の砂利道は、当時からあったことがわかった。

自然堤防の内部(河川敷)や、蛇行部の内側も桑畑の記号(ㄥ)が並んでいる。恐らく「青鳥」と呼ばれる集落で、養蚕が行われていたのだろう。

ともあれ、三日月沼が河跡湖であることがはっきりした。続く研究はその変遷(歴史)である。私は人工的な流路変更だろうと予想した。